

疾患プロテオゲノム研究センターの設置

(疾患ゲノム研究センターの改組)

2012(平成24)年4月

先端酵素学研究所の由来する組織のうち、疾患プロテオゲノム研究センターは、1998(平成10)年に設立されたゲノム機能研究センターから2008(平成20)年の疾患ゲノム研究センターへの改組を経て、2012(平成24)年4月に設立された学内共同教育研究施設である。

ゲノム機能研究センターは、その設立当時、世界的にもヒトゲノムプロジェクトが推進されている時代、そしてポストゲノムシーケンス時代を見据えたゲノム機能学によるゲノム制御機構の理解が望まれていたことから、その実現に向けて、西日本で唯一のゲノムセンターとして3分野の構成で創立された。その後、2008(平成20)年4月には、それまでの古典的ゲノム理解から個々の細胞、個体レベルでの生命システムの統合的理理解明を通じた生物の多様性の理解から疾患の克服を目指す研究および未来医療の確立を目指す基礎研究と大学病院および産業界と連携して先端医療の実用化を目指す開発研究を推進するために、「疾患」を冠した「疾患ゲノム研究センター」に改

組した。この改組により、6分野1施設(ゲノム機能分野・ゲノム制御分野・生体機能分野・蛋白発現分野・疾患プロテオゲノム分野・生命システム形成分野・遺伝子実験施設)から構成されるセンターへと発展した。さらに、その当時の国の定めた「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想」の『ヒトプロテオゲノミクスネットワーク』を始動させて、国内外との連携での研究拠点化を図ること、そして、これまでのゲノム制御機構の理解に加えて、遺伝子情報発現を担うエピゲノム、さらにその産物であるタンパク質情報を担うプロテオームを統合的に理解することを目指すプロテオミクスの遂行による「人の健康の増進および疾患の克服」を目標として掲げた「疾患プロテオゲノム研究センター」へと改組した。本センターは、大学内他部局との連携や共同実験機器利用システムの確立、その充実を図ることで大学内生命科学を促進してきた。

